

教 師 ノ ー ト

日付	2016年 2月28日
単元	マタイの福音書・3
テーマ	神を愛し、人を愛する者となる
タイトル	いちばん大切なこと
テキスト	マタイ22:34～40
参照箇所	申命記6:5、レビ19:18、マルコ12:28～31、ルカ10:25～37
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ22:37、39
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

パリサイ人と呼ばれる人が、イエスさまに「聖書の中で一番たいせつなことは何ですか？」と質問をしました。みなさんも、その答えを知りたいと思いませんか？

□ポイント1 律法の中で、たいせつな戒めはどれですか？(34－36節)

イスラエルの神さまを信じる人たちの中には、旧約聖書の律法の教えを厳しく守っていた、パリサイ派というグループがありました。この人たちをパリサイ人と呼びました。聖書の教えを守ることは、大事なことです。しかし、彼らは間違った考えを持っていました。「律法を守っている自分たちだけが、神さまに愛され、救われる資格がある」といって、イエスさまを救い主だと認めようとしませんでした。また、彼らは「律法を全て守る自分たちだけが偉い」と考え、他の人を見下して、付き合おうとしませんでした。

ある日、パリサイ人の律法の専門家が、イエスさまを、困らせようとして、難しい質問をしました。「先生、聖書には、盗んではいけない、殺してはいけない、〇〇してはいけない、とたくさんの戒めがあります。いったい、どれが一番たいせつなのですか？」イエスさまが、うまく答えられなかったら、その言葉じりにつけこんでやろうとしていたのです。そして、イエスさまを言い負かし、逮捕したいと考えていたのです。

☞パリサイ人の解説は省略しても良い。

□ポイント2 「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい」(37－38節)

これは、パリサイ人や律法学者たちが、必死で守っていた申命記6:5のみことばです。

「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして」とは、どういう意味でしょうか。心・思い・知性は、「私たちの内にあるものすべて」です。私たちの感じること、考えること、気持ち、喜び、悲しみ、楽しみ、決心、やる気・・・すべてのことです。ですから、私たちのすべて(全存在・全人格)で、イエスさまを愛しなさいということです。

「愛する」とは、大切にすることです。だれかを「愛する」というとき、その相手を大切にします。相手を大切にすることとは、相手の気持ち(心)を大切にすることです。相手がどういう気持ちかを、思いやって、そのとおりにする(尊重する)ことです。「神さまを愛しなさい」というのは、神さまの気持ち(みこころ)を考えて、そのとおりにすることです。

ですから、第1の戒めは、いつでも、神さまがどんな気持ちかを、心も頭も精一杯使って考えること。家にいるときも、学校にいるときも、イエスさまがどうして欲しいかを、一番に優先して考えること。そして、私たちの内のすべてを出し切って、精一杯みこころのとおり、行動すること。それが、心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、神さまを愛するということです。

イエスさまは、「これが、たいせつな第1の戒めです」と、キツパリお答えになりました。

☞ 神さまは、私たちのことを、イエスさまの命よりも大切だ(高価で尊い)ということを示してくださいました。だから、私たちも、神さまを愛するのです。

□ポイント3 「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」(39-40節)

これも、パリサイ人が良く知っている、旧約聖書レビ記に出てくるみ言葉です(レビ記19:18)。「隣人」とは、いったいだれのことでしょうか(例:学校で隣の席の人、近所の人、友達など)?イエスさまがおっしゃっている「隣人」の中には、もちろん「あなたの周りにいる人」という意味があります。ですから、学校・教会・近所の友だち、家族・兄妹・親戚など、あなたの周りにいる人を、愛しなさいということです。しかし、それだけではありません。聖書で「隣人」と言う時は、「あなたの助けを必要としている人」のことです※。それがだれであるかは、みなさん自身が、よく気付いているのではないのでしょうか?(いじめられている人、仲間外れにされている人、障害をもっているお友だち、困っている人など思い起こせるはず。)

「あなた自身のように愛する」とは、どんな意味でしょう?人はだれでも、自分が一番たいせつです。自分の気持ちを分かかってほしい、自分の願いをきいてほしい、といつも願っています。「あなた自身のように愛する」とは、自分にして欲しいと願うことを、相手にもすることです(マタイ7:12)。

ですから、第2の戒めは、自分の気持ちを分かかってほしいと、相手に願うように、助けを求めている人の気持ちを理解してあげることです。そして、その人のそばに行き、自分から隣人になり、自分がして欲しいのと同じように、助けることです。

イエスさまは、これは第1の戒めと同じくらい大切だと教えてくださいました。

※隣人とは誰か?の質問にイエスは「良きサマリヤ人」の例えでお答えになった(ルカ10:25~37)。また、金持ちの青年に対しては、隣人を愛する方法として、貧しい人に財産を分けることを教えられた(マタイ19:16~21)。そのことから、ここでは小学生にわかるように「隣人=あなたの助けを必要としている人」とした。隣にいる人が隣人ではなく、自ら進んで「隣人になる」ことが大切。

☞ 自分を愛することも、第2の戒めの一部です。教師は、自分を愛せないお友だちには、個人的に対応するようにしてください。

□結論 イエスさまは、神さまを愛し、人を愛することが一番たいせつだと教えてくださいました。

例話:十字架は、タテとヨコの線でできています。タテは神さまを愛する第1の戒め、ヨコは隣人を愛する第2の戒めをあらわしているように見ることができますね。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. イエスさまの気持ちを、一番に大切にしよう! 私たちのすべてで、いつも精一杯お祈りし、賛美し、礼拝しよう。精一杯、聖書を読み、メッセージをきき、ディボーションし、神さまのみこころを知ろう。そして、精一杯、みこころのとおりに行動しよう。これが神さまを愛するということです。「一番たいせつなこと」ですから、今日から守っていきましょう。
2. あなたの助けを必要としている人の気持ちを考えて行動しよう! あなたの助けを必要としている人を思い起こしましょう。あなたが、その人の立場だったら、どうして欲しいかを考えましょう。そして、あなたがして欲しいと思うことを、その人にしましょう。困っている人だけでなく、あなたの関わる人、すべてに対して、自分と同じように、相手の気持ちを思いやることを心がけましょう。